

日本放射線影響学会第 63 回大会の開催にあたって

この度、日本放射線影響学会第 63 回大会を、令和 2 年 10 月 15 日(木)～16 日(金)の 2 日間、福島県福島市・コラッセふくしま、を会場に開催させていただくことになりました。福島県での本学会の開催は史上初となります。歴史と伝統ある本会をお世話させていただきますことは大変光栄であり、島田理事長ならびに本学会関係各位に厚く御礼申し上げます。

ご告知の通り、未だ、新型コロナウイルス (COVID-19) が世界的に猛威を振るい、我が国でも多くの感染者が確認されております。私ども大会実行委員会では、大会の開催について、中止・延期、WEB 開催への変更、等、悩みに悩みましたが、政府のイベント開催制限の段階的緩和の発表を受け、「2011 年の福島第一原子力発電所の重大事故による放射線災害から 10 年目の節目の年に、放射線の生物影響について社会に正しい情報を適切に提供し福島への偏見・風評を払拭するには、放射線の研究者が福島で一堂に会し議論することに大きな意義があるのではないか」、との結論に至り、期間を例年より 1 日短縮し、また、感染防止対策を徹底した上で、現地で開催させていただく事とさせていただきました。

本大会のメインテーマは、福島県での開催ということで、「被災地のレジリエンスと放射線医科学のイノベーション」です。“レジリエンス”とは、「さまざまな環境・状況に対しても適応し、生き延びる力」、といった意味ですが、まさに、「with コロナ」とも言われるこれからの時代に適応し、放射線研究をさらに発展させるきっかけになれば、と考えております。学術プログラムでは、新型コロナウイルス感染拡大により大会開催が危ぶまれる中でも、25 のシンポジウム・ワークショップ、約 130 の一般口演・ポスター発表、合計で約 250 もの演題の応募をいただきました。誠に有難うございます。当日は、熱く・激しい議論がされるものと期待しております。

残念ながら大人数が集まる会員懇親会は中止させていただきますが、10 月の福島には、紅葉、温泉、福島の誇る美味しい日本酒（金賞受賞蔵数日本一！）、伊達鶏・川俣シャモなどの地鶏焼き鳥、などなど、がございます。また、東京電力様の御協力で、福島第一原子力発電所の敷地内見学も予定しております（人数制限あり）。学術大会での活発なディスカッションとともに、福島を満喫いただけますよう精一杯準備させていただきます。皆様の御来福を心よりお待ちしております！！

日本放射線影響学会第 63 回大会

大会長 鈴木 義行

令和 2 年 6 月 24 日

日本放射線影響学会第 63 回大会の開催にあたって

この度、日本放射線影響学会第 63 回大会を、令和 2 年 10 月 15 日(木)～16 日(金)の 3 日間、福島県立医科大学が主管として開催させていただくことになりました。歴史と伝統ある本会をお世話させていただきますことは大変光栄であり、島田理事長ならびに本学会関係各位に厚く御礼申し上げます。

ご承知の通り、未だ(8 月末時点)、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に猛威を振るい、我が国でも多くの感染者が確認されております。私ども大会実行委員会では、大会の開催について、中止、延期、WEB 開催への変更、等、皆様から御助言いただいておりますが、「2011 年の福島第一原子力発電所の重大事故による放射線災害から 10 年目の節目の年に、放射線の生物影響について社会に正しい情報を適切に提供し福島への偏見・風評を払拭するには、放射線の研究者が福島で一堂に会し議論することに大きな意義があるのではないか」、との想いが強く、悩みに悩んだ末、一度は、予定通りコラッセふくしま(福島県福島市)での開催を決めたものの、7 月以降の感染の再拡大(いわゆる、第 2 波)を受け、断腸の思いで WEB 開催に変更させていただくことにいたしました。決定が遅れ、皆様方に御迷惑おかけいたしましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。

本大会のメインテーマは、福島第一原子力発電所の重大事故の主たる被災地である福島県での開催ということで、「被災地のレジリエンスと放射線医科学のイノベーション」とさせていただきます。“レジリエンス”とは、「さまざまな環境・状況に対しても適応し、生き延びる力」、といった意味ですが、まさに、「with コロナ」、「ニューノーマル」とも言われるこれからの時代に速やかに適応し、放射線研究をさらに発展させるきっかけになれば、と考えております。学術プログラムでは、新型コロナウイルス感染拡大により大会開催が危ぶまれる中でも、25 のシンポジウム・ワークショップ、約 130 の一般口演・ポスター発表、合計で約 250 もの演題の応募をいただきました。誠に有難うございます。WEB 開催という、慣れない形態ではありますが、熱く・激しい議論がされるものと期待しております。

残念ながら、10 月には、福島の誇る美味しい日本酒(金賞受賞蔵数日本一!)、伊達鶏・川俣シャモなどの地鶏焼き鳥、紅葉、温泉、など、を堪能していただく機会は無くなってしまいましたが、その代替として、新型コロナウイルス感染の状況次第ですが、皆様方が集い・語れる場として、来年 2 月 20 日、福島市でのサテライト・イベントを開催させていただく予定としております。もちろん、東京電力様の御協力で、福島第一原子力発電所の敷地内見学ツアーも予定しております(人数制限あり)。

皆様にご満足いただける大会となりますよう、精一杯準備しております。学術大会、及び、“福島”への御支援、どうぞよろしくお願いいたします。

日本放射線影響学会第 63 回大会

大会長 鈴木 義行

令和 2 年 9 月 1 日

Welcome message from the Meeting President

We are honored to host the 63rd Annual Meeting of the Japanese Radiation Research Society (JRRS) at Fukushima CORASSE in Fukushima, Fukushima Prefecture on October 15-17, 2020. This is the first time that the annual meeting of JRRS is held in Fukushima Prefecture. It is a great honor to be the host of this meeting which has a long history and tradition, and I would like to express my sincere appreciation to President Shimada and all the members of the Society.

As you know, the coronavirus (COVID-19) is still raging worldwide (as of the end of August), and many who are infected have been confirmed in Japan. The Organizing Committee has received many advices such as cancellation, postponement, or change to online meeting regarding the hosting of the annual meeting. In the 10th year of the radiation disaster, we believed that, in order to properly provide the public with correct information about the biological effects of radiation and dispel prejudice and incorrect rumors about Fukushima, it is of a great importance that radiation researchers meet together in Fukushima and discuss the current status. Although we have once decided to hold the meeting in CORASSE Fukushima (Fukushima City, Fukushima Prefecture) as planned, after the re-surfing of COVID-19 infection in July, we have decided to host the meeting on the internet basis. We sincerely apologize for any inconvenience caused by the late decision.

Because this meeting is held in Fukushima Prefecture, we have decided the main theme as "Resilience of the disaster-affected areas and innovation of radiation medicine". "Resilience" means "the ability to adapt to various environments and situations and to survive", and we hope that the society will be able to quickly adapt to the time of "with corona" and "new normal", and this meeting will become an opportunity to further develop radiation research. Despite the worries of the meeting due to the spread of coronavirus infection, the academic program will have 25 symposiums & workshops and 130 general oral & poster presentations, and we have received a total of about 250 abstracts, we sincerely thank the members for their cooperation. Although it is an unfamiliar form of holding a meeting online, we hope that that there will be exciting and intense discussions.

Unfortunately, in October, we are no longer able to provide you with the opportunity to enjoy Fukushima's delicious sake (the highest number of gold-prize-winning sake wineries in Japan!), local chicken yakitori such as Date chicken and Kawamata "shamo" (chicken), autumn leaves, and hot springs. However, as an alternative, depending on the situation of coronavirus infection, we plan to hold a satellite event in Fukushima City on February 20, 2021, as a forum for everyone to gather and talk. Of course, with the cooperation of TEPCO, we are planning a tour of the site of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station (there will be a limit to the number of participants).

We are doing our best to make the meeting a satisfying event. We sincerely thank you for your support to the academic meeting and to Fukushima.

The 63rd Annual Meeting of the Japanese Radiation Research Society (JRRS)

The Meeting President Yoshiyuki Suzuki, MD, PhD.

September 1, 2020